

「鎌倉殿」と瀬戸・六浦・金沢の年表

西暦	和暦	事項	将軍	執権	金沢氏・六浦庄・三浦氏・その他
1147	久安3年	常福寺とその本尊（阿弥陀三尊）の建立			
1157	保元2年	六浦庄が源義朝から常陸国の那珂実経（大中臣実経）に与えられる。			六浦庄（平治の乱以降は三浦・和田の勢力下?）
1180	治承4年	頼朝、伊豆で旗揚げ、鎌倉に入る。 この年に瀬戸神社勧請の伝承。			
1181	治承5年／養和元年	清盛死去。			
1182	養和2年／寿永元年	文覚、江ノ島で開眼供養。頼朝参拝。（吾妻鏡） このころ時政の弁財天伝説（三鱗の起源話。太平記）			
1183	寿永2年	源義仲、入京。			
1184	寿永3年／元暦元年	宇治川合戦、義仲戦死。 一ノ谷合戦。			
1185	建暦2年／文治元年	屋島合戦。 壇ノ浦合戦。 頼朝、瀬戸神社を勧請し百日参籠。（先後不同記） このころ文覚、瀬戸神社護持のため六浦山中に浄願寺を創建。（龍華寺縁起） 義経追討のため日本国惣追捕使・地頭の設置。			
1186	文治2年				
1187	文治3年	義経、平泉に逃げ込む。			
1189	文治5年	義経、藤原泰衡に攻められ、自殺。 奥州藤原氏、滅亡。			
1190	文治6年／建久元年	頼朝、上洛。右近衛大将に任ず。			
1191	建久2年	公文所を政所と改称し、問注所執事など要職を任命。			
1192	建久3年	武蔵国六連海辺にて囚人上総五郎兵衛尉忠光梟首。 貞暁（頼朝の庶子、母大進局）、仁和寺に入る。 頼朝、征夷大將軍になる。	頼朝		六浦庄が仁和寺領に
1193	建久4年	範頼、伊豆に流され殺される。			
1199	建久10年／正治元年	頼朝、死去 梶原景時追放			
1200	正治2年	梶原景時、清見関にて討ち取られる。			
1202	建仁2年	頼家、征夷大將軍に任ぜられる。	頼家		
1203	建仁3年	阿野全成、常陸に流され殺される。 比企能員が討たれる。（比企の乱） 頼家が修善寺に幽閉される。		時政	
1204	建仁4年／元久元年	頼家が殺される。 実朝を征夷大將軍。	実朝		
1205	元久2年	畠山重忠、討たれる。（二俣川の戦） 北條時政、伊豆へ追放。		義時	
1208	承元2年	江ノ島竜穴で雨乞い			
1213	建暦3年／建保元年	和田義盛、挙兵に失敗し一族敗死。（和田合戦） 討ち取られた和田軍勢の中に、「六浦三郎、同平三、同六郎、同七郎」			これまでは和田氏が六浦庄を領したか？。 朝夷名三郎伝説（安房国朝夷郡と繋がり?）
1218	建保6年	実朝、右大臣になる。 瀬戸神社に定恩法眼を遣わして和歌を献詠（先後不同記）			
1219	建保7年／承久元年	実朝、鶴岡社頭にて公暁により暗殺。 陵王面・抜頭面（重要文化財） 抜頭面の裏面に「運慶法印自ら彫刻・・・建保七年」の朱銘 実朝の供養のため政子が奉納したと伝承			
1221	承久3年	承久の乱。			
1224	貞応3年／元仁元年	三浦崎より六浦前浜に大量の魚が浮く5/13吾妻鏡 祈雨のため霊所七瀬御祓（由比浜、金洗沢、固瀬河、六浦、狹河、杜戸、江島竜穴）6/6 北條義時歿。6/13 疫病流布のため四角四境鬼気祭（東六浦、南小壺、西稻村、北山内）12/26	(尼将軍)	泰時	実義→実泰 （泰時の異母弟、義時より遺領六浦庄を与えられ、伊賀氏の変ののち実泰を名乗る。通称、蒲谷殿）
1225	元仁2年／嘉禄元年	北條政子歿。			
1226	嘉禄2年	九條頼経（1218建保6年生）を征夷大將軍。	頼経		
1228	安貞2年	将軍家御遊覧のため六浦に渡御し止宿す。4/28-5/1			江ノ島・杜戸には三浦義村がお供。
1230	寛喜2年	将軍家御遊覧のため三崎磯に出御、六浦津よりお船を召す。山桜の盛りで海上で管弦・連歌。3/19			
1232	寛喜4年／貞永元年	「御成敗式目」51条を制定。			起請文の十三人に三浦義村

1234 天福2年／文暦元年	北條実泰、出家。実時が家督。			実時
1235 文暦2年／嘉禎元年	将軍家御不例につき 四角四境祭 （小袋坂、小壺、 六浦 、固瀬河）12/20 霊所祭 （由比浜、金洗沢、固瀬河、 六浦 、狹河、杜戸、江島竜穴）12/27			
1238 嘉禎4年／暦仁元年	将軍頼経、鎌倉を発ち上洛1/28。鎌倉に帰る10/29。			上洛の戦陣は 三浦義村 。翌延応元年歿12/5。
1240 延応2年／仁治元年	祈雨のため 七瀬霊所祓 6/15 鎌倉と 六浦津 の中間道路の議定あり、曳縄丈尺し御家人に配分。11/30			
1241 仁治2年	六浦道 を造始める。4/5。泰時監臨して督励。5/14			
1242 仁治3年	泰時歿。6/15		経時	
1244 寛元2年	九条頼嗣が鎌倉第5代将軍。	頼嗣		
1246 寛元4年	北條時頼、執権就任。 九条頼経、京都に送還。		時頼	
1247 寛元5年／宝治元年	宝治合戦 。6/5。北條氏と安達氏により 三浦泰村 ら一族とその与党が滅ぼされる。 6/6 六浦庄内 に余党人群居するので領主実時以下に追討を命じる。妹婿の上総権介秀胤追捕を命ず。			領主陸奥掃部助実時と記す 六浦庄内の三浦氏勢力が排除
1252 建長4年	宗尊親王、将軍に。4/1	宗尊親王		
1256 建長8年／康元元年	将軍御惱のため 七座霊所祓 9/3 九条頼嗣歿。 北條長時、執権に就任。		長時	
1258 正嘉2年	六連庄内金沢村に越後守実時堂廊を点ず			
1261 文応2年／弘長元年	辛酉天下静謐のため 霊所七瀬祓 。			
1264 文永元年	北條政村、執権に就任。		政村	
1266 文永3年	惟康親王、将軍に。7/24	惟康親王		
1268 文永5年	北條時宗、執権に就任。		時宗	
1273 文永10年	北條實時、 瀬戸堤内入海を殺生禁断 とすることを下知			
1275 建治元年	北條実時、病で六浦に籠居			
1276 建治2年	北條実時歿。10/23			実時歿 顕時
1277 建治3年	武蔵六連庄の替として備中国巨勢庄預所地頭兩職を勝宝院に安堵（関東下知状／仁和寺経蔵文書）			六浦庄を金沢氏のものに
1284 弘安7年	北條貞時、執権に。		貞時	
1285 弘安8年	得宗家の内管領平頼綱が、安達泰盛とその一族を滅ぼす。 11/17（霜月騒動）。			金沢顕時（泰盛の娘婿）は下総国に蟄居
1289 正応2年	久明親王、将軍に。10/9	久明親王		
1293 正応6年	平禅門の乱。内管領平頼綱が、北条貞時によって討伐。4/22			
1301 正安3年	北條顕時歿。3/28 北條師時、執権に。8/22		師時	顕時歿 貞顕
1302 正安4年	北條貞顕、六波羅探題南方として上京。			
1305 嘉元3年	瀬戸橋造営棟別銭 （下河辺庄、金沢、六浦、富岡、蒲利谷）			瀬戸橋架橋
1308 延慶元年	守邦親王、将軍に。8/10 北條貞顕、六波羅探題南方を退任。翌年帰鎌。	守邦親王		
1311 延慶4年／応長元年	「正一位大山積神宮」神号額 、沙弥寂尹（藤原経尹）。4/26 北條宗宣、執権に。10/3		宗宣	
1312 応長2年	北條熙時、執権に。6/2		熙時	
1315 正和4年	北條基時、執権に。7/12		基時	
1316 正和5年	北條高時、執権に。7/10		高時	
1324 正中元年	正中の変。9/19 北條貞将、六波羅探題南方として上京。11/16			
1326 正中3年／嘉暦元年	北條貞顕、執権に。3/16		貞顕	3/26貞顕、執権を辞し出家（崇顕）。
1326 正中3年／嘉暦元年	北條守時、執権に。4/24		守時	
1330 元徳2年	北條貞将、六波羅探題南方を退任。			貞将
1333 元弘3年／正慶2年	北條貞将、新田勢を迎え撃つため下河辺庄に向かうため 六浦庄で軍勢を整えた が5/10、鶴見川付近で破れ、鎌倉に戻り、新田軍に対し巨福呂坂で奮戦。その後東勝寺にて一族（崇顕貞顕も）ともに自刃5/22。その際、高時から執権に任ぜられたとする説あり。（鎌倉幕府滅亡）		（貞将）	元弘は大覚寺党後醍醐天皇、 正慶は持明院統光厳天皇の年号
1352 文和元年	上行寺に牛馬六畜供養塔			
1353 文和2年	瀬戸橋供養（六浦妙法景光による再建）4/27			六浦妙法は4/24歿。